

平成29年度卓話集会におけるディスカッションの概要

No.	地区名	質問・要望・提案	回答
1	寺坂	町の高齢者が多いと聞か、どれくらいいるのか。 また、寺坂地区で高齢で元気な人がよく散歩しているように感じる。町の推進するスポーツには歩くことも含まれるのか。	町の65歳以上の高齢者の割合は全体の35パーセントに近づいている。 歩くことを含め、体を動かすということが大切であり、単に体を動かすだけでなく継続することが大切である。できればグループを作り、皆さんでスポーツに参加してほしい。
2	寺坂	食育とあるが、どのような食べ物を食べれば健康であり続け、高齢で長生きできるか町で検討したことはあるか。	町ではバランスのいい食事を勧めている。塩分を控え、血圧に気をつけ、タンパク質を取り筋力を衰えさせないようにすることが大切である。一日の塩分摂取量の目安などについては、「おあしす24健康おおいぞ」で話をしている。
3	寺坂	7月発行の議会だよりで中学校の給食を生徒の21パーセントが食べ残し、半分しか食べない生徒が半数近くいるとあった。育ち盛りの世代がなぜ給食を食べ残すのか町で検討してほしい。寿命にも関係することに感じる。	中学校の給食はデリバリー方式で実施している。残食の理由として時間的要素、温度、味付けの制限等がある。全生徒に平均的な摂取カロリーを与えたいと考えている。食育により、将来生活習慣病にならない食事を教えているが、子どもからは味が薄い・冷たいという意見があり、残食率が増えている。味と栄養のバランスを考え、検討していく。
4	寺坂	健康寿命をテーマにすることは今年のみか。また、健康についての事業への参加率はどれほどか。	卓話集会のテーマは毎年変更していくが、町の健康への取り組みについては町長に就任してから続けている。 おあしす事業はリピーターを含め延べ1万6千人が参加している。チャレンジフェスタについては開始当初より規模が大きくなり、多くの方に参加していただいている。
5	寺坂	乳幼児、学童期が健康寿命に大きな影響を与えると考える。子どものときの食育に力を入れ、親の食についての意識を変えていくことが大切ではないか。	母子手帳を取りに来る方に対して、食に関することを含めて従来よりはるかに多くの説明、指導を保健師などから行っている。町を担う子どもたちのための食育は幼児期から継続的に行っていく。

6	寺坂	町役場の職員数は決まっていると思われるが、健康に対して何人で事業を行っているのか。	各課に分散し配置していた保健師、栄養士をスポーツ健康課にまとめて配置し、効率的に業務に当たれる体制を作り、現在の健康事業を行っている。
7	寺坂	イノシシ対策について現況を知りたい。	昨年、町は220頭のイノシシを捕獲した。農作物の放置が原因であると農政懇談会で話をしている。イノシシ対策の講習会を一部地区で行っており、徐々に効果を発揮している。寺坂でも講習会を開催し地区の方々に対処法を広く伝えていく。町だけでなく地区の皆さんと一緒に取り組むべき課題であると認識している。
8	寺坂	イノシシの檻の稼働率はどれほどか。使用するマニュアルは存在するか。	檻について、昼夜を問わず連絡体制を整えている。夜間にあった連絡については翌朝対応としている。檻のマニュアルがあるのでイノシシ対策講習会等で周知をしていきたい。
9	寺坂	畑の隣の土地の茅場にイノシシが棲み着いている。このようにイノシシが棲み着く場所を町が買い取り、茅の刈取りを行ってもらえないか。	町はイノシシの巣になる藪などの刈取りを行ってほしいと土地の所有者に言い続けている。町が土地を買い取り刈取りすることはできないが、土地所有者には情報提供するとともに、刈取りを引き続きお願いする。
10	寺坂	虫窪、西久保、黒岩の子どものバス通学に対して補助金を出しているか。出していなければ子どもを増やす政策として、運賃の補助を行ってもよいのではないか。	虫窪、西久保方面の公共バス路線が廃止されたため、バス会社に補助して、バス路線を維持してもらっている。現時点では、子どものバスの運賃に対する補助は考えていない。
11	寺坂	寺坂老人憩の家が地区の避難所になっているが、県道から憩の家までに川を渡る必要があり、大雨のときに避難してもかえって危険ではないか。 県道を挟んで小田原厚木道路側と線路側では地盤の質が異なり、何かあれば県道の小田原厚木道路側に逃げろと伝え聞いている。避難所が寺坂老人憩の家でよいか。	寺坂地区の避難所について検討していく。寺坂で然るべき場所をご提示いただき、安全であると確認できれば、町として所有者に対して避難所としての利用のお願いに伺うことも検討する。